

令和元年度第1回HOT21観光プラン推進委員会結果概要

日 時	令和元年7月1日（月）13：30～14：45
場 所	箱根町役場分庁舎4階 第5会議室
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ●箱根町 <ul style="list-style-type: none"> ・山口町長（委員長） ・石川企画観光部長 ●町議会 <ul style="list-style-type: none"> ・総務企画観光常任委員長 山田議員 ●箱根DMO（一般財団法人箱根町観光協会） <ul style="list-style-type: none"> ・佐藤専務理事（勝俣理事長代理） ●箱根温泉旅館ホテル協同組合青年部 <ul style="list-style-type: none"> ・福住副部長 ●小田原箱根商工会議所箱根支部 <ul style="list-style-type: none"> ・田村副支部長 ●小田原箱根商工会議所箱根支部青年部 <ul style="list-style-type: none"> ・中嶋理事 ●箱根コンベンションビューロー <ul style="list-style-type: none"> ・鴻野理事長 ●小田急箱根ホールディングス(株) <ul style="list-style-type: none"> ・室橋営業統括部長 ●伊豆箱根鉄道(株) <ul style="list-style-type: none"> ・齊藤観光事業部長 ●神奈川県タクシー協会小田原支部 <ul style="list-style-type: none"> ・曾我支部長
オブザーバー	<ul style="list-style-type: none"> ●環境省関東地方環境事務所富士箱根伊豆国立公園管理事務所 <ul style="list-style-type: none"> ・石川所長、三浦国立公園利用企画官 ●神奈川県西地域県政総合センター <ul style="list-style-type: none"> ・角田商工観光課長 ●神奈川県西土木事務所小田原土木センター <ul style="list-style-type: none"> ・小山道路維持課長 ●神奈川県自然環境保全センター箱根出張所 <ul style="list-style-type: none"> ・露木出張所長
欠席者	<ul style="list-style-type: none"> ●町議会 <ul style="list-style-type: none"> ・観光振興議員連盟会長 石川副議長 ●一般財団法人箱根町観光協会 <ul style="list-style-type: none"> ・太田誘客宣伝委員長 ●箱根温泉旅館ホテル協同組合 <ul style="list-style-type: none"> ・岡田副理事長 ●箱根町商店連絡協議会 <ul style="list-style-type: none"> ・迹見会長 ●箱根湯本芸能組合 <ul style="list-style-type: none"> ・館組合長 ●箱根物産寄木工芸協同組合 <ul style="list-style-type: none"> ・石川理事長

事務局等	吉田観光課長（事務局長）、関田副課長、遠藤観光係長、箱根 DMO 佐藤・渡辺、(株)JTB 総合研究所 河野地域戦略部長 主席研究員
------	--

(概要)

吉田事務局長により、出席者の紹介及び資料の確認等を行った後、別紙次第に則り議事が進められた（進行：山口委員長）。

■議 題

(1) 実施計画策定へ向けた今年度の進め方について（資料1）

《事務局説明要旨》

[前年度までの取組みの経過と、今年度の予定の概要について]

- ・2017（平成 29）年度においては、観光振興条例に基づく観光振興プランとして「基本計画」を策定した。これは町総合計画に掲げる将来像の実現のため、観光分野での根幹となる計画で、計画期間は総合計画の構想期間と連動しており、2027 年度を目標年度とする 10 年間となっている。
- ・翌 2018（平成 30）年度では、箱根 DMO による各種データから詳細なマーケティング調査や分析による箱根における観光の現状の把握、そして今後における予測が行われた。これらを踏まえ、観光戦略と将来目標値が明らかになったことから、2030 年度を見据えたうえでの「将来目標値（K P I）」を設定した。
- ・今年度については、これらに示している観光ビジョンや基本戦略などを、さらに具体的な施策へと落とし込んだ「実施計画」を策定することとしている。
- ・計画期間は、2027 年度を目標年度としたうえで、前期と後期に分けて考えている。2023 年度までの 5 年間を前期、2024 年度から 2027 年度までの 4 年間を後期とし、今年度は前期分の実施計画を策定する。

[今年度の進め方について]

- ・実施計画の策定業務については次の理由から「箱根 DMO」へ委託することとしている。
 - ①一つは観光戦略、将来目標値を定めるにあたって、緻密なマーケティング調査と分析から箱根観光の現状分析を行ったうえで今後の予測を立て、論理的に積み上げて目標値を導き出したのは、この「箱根 DMO に他ならない」こと
 - ②実施計画には、この将来目標値を達成するための「具体的な打ち手」を盛り込んでいくこととなるので、その検討にあたっては「箱根 DMO が検討主体となるべきである」と判断できること
- ・委託先である箱根 DMO が行う業務を行うにあたってのポイントは、主に 3 点。
 - ①一つは観光事業者など関係者との打合せやヒアリングは随時行っていただくこと
 - ②二つ目は各地域を対象にした意見交換の場を設けるなどして、地域における意見把握に努めていただくこと
 - ③三つ目は先に策定した基本計画の内容と齟齬が生じないように、この基本計画の策定業務を受託した株式会社 J T B 総研と整合性等について十分に調整のうえ進めていただくこと
- ・この流れの中で、当委員会の関わりとして、会議は「3 回程度」の開催を想定している。会議と会議の間においては、箱根 DMO が検討主体となり、考え方、方向性などを取りまとめたうえで当委員会へ提示していただく。当委員会としては提示された内容について議論したうえで、「最終的な内容承認＝計画案決定」という流れとなる。
- ・この実施計画については早目に策定、公表する考え。そのメリットとして、早目

に公表できればその分早く「民、官、地域」における取組みの検討、実施が促されることが期待できることなどから、可能な限り早期の策定を目指す。

結 論

実施計画策定に係る今後の進め方等について了承された。

(2) 策定スケジュール等について（資料2）

《事務局説明要旨》

- ・計画策定の進め方、主な考え方については既に説明させていただいたので、ここでは、策定までの「想定スケジュール」についてご確認いただきたい。
- ・当委員会が関わる部分としては、「3回程度」の会議開催を想定している。早期の策定を目標としており、パブコメなどの必要な手続きを経たうえで、「12月中」には策定することを目指していきたいと考えている。

〔委員長〕

- ・事務局からの説明にもあったが、この実施計画については可能な限り早期に策定していくことで「民と官、そして地域」において、様々な観光振興に係る取組みが進んでいくことが期待できると考えている。引き続き皆様のご協力をお願いしたい。

結 論

令和元年度における実施計画の策定スケジュール等について了承された。

(3) 実施計画の骨子について（資料3・資料4）

《事務局説明要旨》

- ・資料3は「基本計画に示す観光ビジョンや基本戦略等」を、資料4は「実施計画に位置付ける施策案のたたき台」を示している。
- ・相互に関連する内容であり、続けて説明した後、皆さんからご意見を伺いたい。

【主な意見等の要旨】

〔委員等〕

- ・実施計画については、数値で達成率が分るような目標を設定するとの理解で良いか。
- ・実施施策案の記載について、現在の観光の目的がモノ消費からコト消費へ推移していることを踏まえ、資料4中「3 観光消費が促進される仕組み作り」の部分へ、夜間・早朝の時間帯を活用した観光コンテンツの強化など、旅マエ目的数を増やしていく施策を具体的に盛り込んでもらいたい。
- ・行政については、支援策や国立公園の規制緩和などへの働きかけや、補助金等の研究もしっかりしていただきたい。また、出国税財源の活用なども盛り込んでいただきたい。
- ・施策の実施主体についての整理が必要である。

- ・街並みの整備については連続性が大事である。道路管理者としては出来る限り地元の意思を汲んで整備を行っていきたいと思っている。しかしながら、道路整備は一長一短に出来ることでは無いので、町としてのビジョンをしっかりと策定してほしい。
- ・資料4中「2 災害時のマニュアル等の策定」については、インバウンドは災害一つで引いてしまう傾向があるので、インバウンドへの影響を及ぼさないようなマニュアル作りが必要であると考えている。
- ・数値目標を立てるのであれば、現状課題の数値を取っておくことが必要である。

[事務局等]

- ・旅マエ目的については、目的数を増やすことを町としても非常に重視しているので、ナイトタイムエコノミーなども含め対応していきたい。
- ・道路整備などについては、短期的な部分、長期的な部分をしっかりと見極めて計画を立てていきたい。
- ・災害があった後、インバウンドが減少するのは当然のことであるが、災害後の対応については、国内旅行者への対応が先決である。国内客が戻らなければ、インバウンドも戻ってこないと考えている。
- ・現状の課題については、昨年数値を取ってあるので、実施項目に沿って数値化していき、目標が達成できたかどうかの判定をしていきたい。PDCAをしっかりと回せるように仕立てたいと考えている。
- ・施策の実施主体のことに関しては、道路に限ったことではないが、インフラ・基盤整備は町が主体となるべきと考える。今回策定する実施計画の5年というスパンの中で、盛り込む内容は優先を付けたうえで十分に配慮していきたい。

[委員長]

- ・すぐにでも出来ることがある。廃プラ問題は海の問題ではなく、陸の問題である。環境に配慮したストローの導入のほか、キャッシュレスなど、すぐに出来るものから取り組むことも必要である。
- ・お金を掛けなければ何も取組みができないということではいけない。
- ・ナショナルパーク構想は重要であると考えているが、具体的な明記となると難しく十分対応できていない現状である。環境先進観光地としての視点(計画)も必要である。
- ・サイクリングやウォーキングなどが安全にできることをPRしたり、バスベイの問題、電線の地中化への対応など、色々やりたいことが多い。しかしながら、地形的な部分で難しい部分もあるので、その様なことも考慮したうえで実施していきたい。
- ・箱根の良さは多様性であると考えている。

《委員長からの補足説明・依頼》

本日いただいた意見は今後策定していく実施計画の中に反映できる部分は可能な限り反映していきたいと考えている。後日あらためて気づいた点などがあれば、ご報告いただきたい。

皆様方においては、それぞれの立場において、より一層のご協力について、どうぞよろしくお願ひしたい。

(4) その他

- ① 国立公園満喫プロジェクトについて
環境省所管事業である「国立公園満喫プロジェクト」について、環境省 石川
所長より情報提供。
- ② 会議概要の公表
HOT21 観光プラン推進委員会設置要綱第10条の規定に基づき、会議終了後、
速やかに結果をとりまとめ、発言者の氏名は伏せて、会議資料とともにホームペ
ージにおいて公表していくことを確認。
- ③ 次年度第1回会議の開催日程調整の報告
次回会議は、9月上旬頃に開催予定。日程は後日皆様に照会し、可能な限り調
整をしたうえで決める旨を確認。